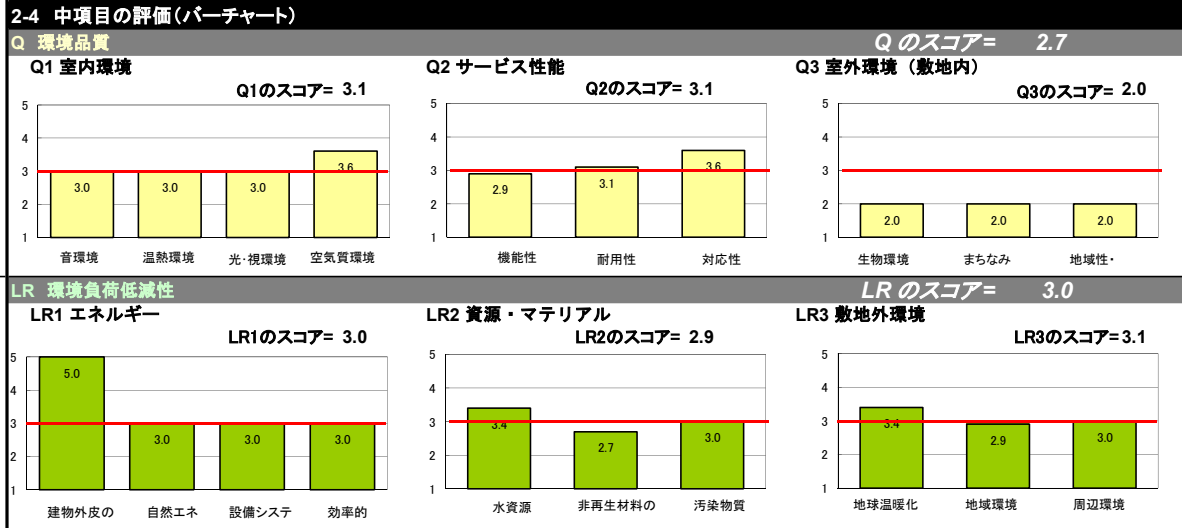
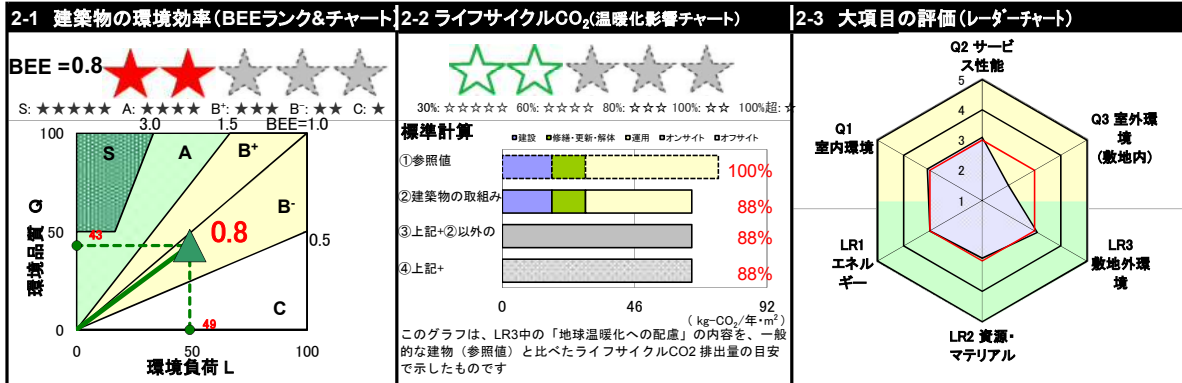


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社 光陽	階数	地上1階		
建設地	愛知県豊川市上長山町小南口原83	構造	S造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	60人		
気候区分	6地域	年間使用時間	3,500時間/年		
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2020年7月 予定	評価の実施日	2019年6月19日		
敷地面積	23,279 m ²	作成者	株式会社富士設計 河野 展之		
建築面積	7,248 m ²	確認日	2019年6月19日		
延床面積	7,240 m ²	確認者	日本国土開発株式会社 近藤 剛		



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p> 	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">25.2 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> 	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体			
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	全体			
Q 建築物の環境品質																2.7	
Q1 室内環境																3.1	
1 音環境																3.0	
1.1 室内騒音レベル																3.0	
1.2 遮音																3.0	
1 開口部遮音性能																3.0	
2 界壁遮音性能																3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																-	
1.3 吸音																3.0	
2 温熱環境																3.0	
2.1 室温制御																3.0	
1 室温																3.0	
2 外皮性能																3.0	
3 ソーン別制御性																3.0	
2.2 湿度制御																3.0	
2.3 空調方式																3.0	
3 光・視環境																3.0	
3.1 昼光利用																3.0	
1 昼光率																3.0	
2 方位別開口																-	
3 昼光利用設備																3.0	
3.2 グレア対策																3.0	
1 昼光制御																3.0	
3.3 照度																3.0	
3.4 照明制御																3.0	
4 空気質環境																3.6	
4.1 発生源対策																4.0	
1 化学汚染物質														内装材は全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	
4.2 換気																3.3	
1 換気量																3.0	
2 自然換気性能														自然換気有効開口面積が居室面積の1/30以上		4.0	
3 取り入れ外気への配慮																3.0	
4.3 運用管理																3.0	
1 CO ₂ の監視																3.0	
2 喫煙の制御																3.0	
Q2 サービス性能																3.1	
1 機能性																2.9	
1.1 機能性・使いやすさ																3.0	
1 広さ・収納性																3.0	
2 高度情報通信設備対応																3.0	
3 バリアフリー計画														独自		-	
1.2 心理性・快適性																2.6	
1 広さ感・景観 (天井高)														事務室の天井高2.7m以上		4.0	
2 リフレッシュスペース																3.0	
3 内装計画																1.0	
1.3 維持管理																3.0	
1 維持管理に配慮した設計																3.0	
2 維持管理用機能の確保																3.0	
2 耐用性・信頼性																3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振																3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																3.0	
2 免震・制震・制振性能																3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数																3.4	
1 躯体材料の耐用年数																3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														② ガルバリウム鋼板を使用		5.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														【事務所用途】床:ビニル床シート、壁:無機質クロス、天井:ボード類		3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔																3.0	
2.4 信頼性																2.8	
1 空調・換気設備																3.0	
2 給排水・衛生設備																2.0	
3 電気設備																3.0	
4 機械・配管支持方法																3.0	
5 通信・情報設備																3.0	

3 対応性・更新性				3.6	0.29			-	3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高3.9m以上	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.1未満	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39			-	2.0
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.0
LR1 エネルギー					0.40				3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.65	5.0	0.04			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27			-	3.0
3 設備システムの高効率化				3.0	0.41			-	3.0
4 効率的運用				3.0	0.28			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.9
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			自動水栓に加えて、節水型便器を採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			-	2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS+PB)	4.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2=88%	3.4	0.33			-	3.4
2 地域環境への配慮				2.9	0.33			-	2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:25.24%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	接道部に緑地を設けることにより、良好な景観を形成している
Q1 室内環境	内装材は全面的にF☆☆☆☆を使用
Q2 サービス性能	内装仕上材は耐用年数の長いものを使用
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の緑化により、緑量の確保および暑熱環境の緩和に努めている
LR1 エネルギー	LED照明設備の設置
LR2 資源・マテリアル	節水型器具の採用
LR3 敷地外環境	LCCO2排出率=88%
その他	特になし